

主要産地における平成26年産水稻の収穫量及び作柄概況等について 第3報（10月31日現在）

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部（平成26年11月4日）

全 国 ・ 道 府 県	収穫量				参考（ふるい目幅1.85mm）			作 況			品質概況等		参 考		
	予想収穫量 （主食用）①	前年産主食用 収穫量	前年産収穫量 （確定値）との比較		予想収穫量 （主食用） （概数）	①との対差	作況指数 26年産	作況指数 25年産	前年産 との比較 対 差	26年産水稻 うるち玄米 1等米比率 （26年9月末）	25年産水稻 うるち玄米 1等米比率 （25年9月末）	生産数量目標			
			対 差	対 比								平成26年産	前年産との比較	増減率	
	t	t	t	%	t	t				%	%	t	t	%	
全 国	7,885,000	8,182,000	▲ 297,000	96.4	7,561,600	▲ 323,400	101	102	▲ 1	79.2	78.7	7,650,000	▲ 260,000	▲ 3.3	
北 海 道	597,200	601,300	▲ 4,100	99.3	577,500	▲ 19,700	107	105	2	84.0	93.5	554,140	▲ 18,800	▲ 3.3	
青 森	257,400	272,100	▲ 14,700	94.6	248,600	▲ 8,800	104	104	0	88.0	94.6	247,000	▲ 12,220	▲ 4.7	
岩 手	287,700	287,800	▲ 100	100.0	278,000	▲ 9,700	105	102	3	91.3	96.8	275,540	▲ 10,810	▲ 3.8	
宮 城	379,600	388,600	▲ 9,000	97.7	368,000	▲ 11,600	105	104	1	92.8	94.4	362,630	▲ 18,140	▲ 4.8	
秋 田	453,000	450,200	2,800	100.6	437,800	▲ 15,200	104	100	4	93.7	95.7	433,040	▲ 13,390	▲ 3.0	
山 形	380,700	386,100	▲ 5,400	98.6	370,300	▲ 10,400	105	102	3	94.8	96.6	358,570	▲ 15,630	▲ 4.2	
福 島	350,600	368,600	▲ 18,000	95.1	339,300	▲ 11,300	104	104	0	93.0	94.2	348,420	▲ 7,440	▲ 2.1	
茨 城	396,200	398,900	▲ 2,700	99.3	384,600	▲ 11,600	105	104	1	93.7	91.6	341,550	▲ 7,340	▲ 2.1	
栃 木	313,700	334,900	▲ 21,200	93.7	300,200	▲ 13,500	100	102	▲ 2	96.7	91.0	309,330	▲ 12,220	▲ 3.8	
埼 玉	169,800	165,900	3,900	102.4	160,700	▲ 9,100	102	98	4	53.9	57.8	152,680	▲ 3,920	▲ 2.5	
千 葉	325,300	329,100	▲ 3,800	98.8	314,200	▲ 11,100	104	104	0	94.9	93.7	249,280	▲ 6,420	▲ 2.5	
新 潟	576,000	594,400	▲ 18,400	96.9	557,000	▲ 19,000	101	103	▲ 2	73.3	78.2	535,640	▲ 10,030	▲ 1.8	
富 山	193,100	198,200	▲ 5,100	97.4	187,800	▲ 5,300	101	102	▲ 1	87.0	68.9	192,340	▲ 3,920	▲ 2.0	
石 川	123,400	130,500	▲ 7,100	94.6	119,800	▲ 3,600	98	101	▲ 3	69.4	83.6	126,400	▲ 3,000	▲ 2.3	
福 井	126,000	134,700	▲ 8,700	93.5	120,800	▲ 5,200	98	102	▲ 4	85.2	83.9	128,130	▲ 5,230	▲ 3.9	
長 野	195,800	213,000	▲ 17,200	91.9	187,000	▲ 8,800	96	101	▲ 5	96.9	97.6	196,640	▲ 7,760	▲ 3.8	
滋 賀	157,100	169,300	▲ 12,200	92.8	149,000	▲ 8,100	97	102	▲ 5	47.3	63.1	163,380	▲ 7,000	▲ 4.1	
兵 庫	177,800	189,800	▲ 12,000	93.7	168,600	▲ 9,200	97	100	▲ 3	60.3	42.7	181,930	▲ 6,010	▲ 3.2	
岡 山	153,300	163,800	▲ 10,500	93.6	144,600	▲ 8,700	94	97	▲ 3	73.0	59.1	160,190	▲ 5,850	▲ 3.5	
広 島	123,300	132,600	▲ 9,300	93.0	117,800	▲ 5,500	95	99	▲ 4	80.4	69.0	130,130	▲ 4,270	▲ 3.2	
山 口	103,800	111,000	▲ 7,200	93.5	99,100	▲ 4,700	96	97	▲ 1	70.2	46.3	110,820	▲ 5,530	▲ 4.8	
愛 媛	73,000	74,900	▲ 1,900	97.5	68,500	▲ 4,500	98	99	▲ 1	42.5	24.0	74,490	▲ 1,690	▲ 2.2	
高 知	55,600	57,900	▲ 2,300	96.0	53,700	▲ 1,900	95	98	▲ 3	20.9	18.1	50,050	▲ 1,700	▲ 3.3	
福 岡	176,000	182,500	▲ 6,500	96.4	162,000	▲ 14,000	96	96	0	29.0	7.0	184,380	▲ 6,860	▲ 3.6	
熊 本	180,900	188,300	▲ 7,400	96.1	168,200	▲ 12,700	97	97	0	43.5	46.4	189,920	▲ 7,790	▲ 3.9	
宮 崎	84,700	92,600	▲ 7,900	91.5	80,000	▲ 4,700	98	100	▲ 2	69.2	65.5	94,470	▲ 4,660	▲ 4.7	
鹿 児 島	102,600	112,500	▲ 9,900	91.2	95,900	▲ 6,700	96	101	▲ 5	37.2	52.0	111,540	▲ 3,980	▲ 3.4	

注：更新箇所について、前回より増加した箇所は二重下線で、減少した箇所は下線で表した。

	品質概況等	備考
道府県	自治体等公表資料（公表資料の抜粋）	全農県本部等の地域生産振興と販売力強化に向けた取組み等（ホームページ公表資料の取り纏め）
北海道	<ul style="list-style-type: none"> ・10月15日現在における水稲の10a当たり予想収量は、577kg（作況指数107）が見込まれる。水稲の作柄は、6月全般の好天による旺盛な分けつにより穂数が「多い」、もみ数が「やや多い」となったこと、登熟は、出穂・開花期以降の気象経過により「平年並み」が見込まれることから、10a当たり予想収量は577kg（作況指数107）が見込まれる。（10月30日付） ・ななつぼしの玄米の外観は、わずかに筋張った感じでやや劣る。青未熟粒、白未熟粒（乳白粒、腹白粒）及び死米の混入は平年よりやや多い。胴割粒の混入は、10%以上とやや多いものが見られる。これらは天候不順により刈取時期がやや遅れたことによる。着色粒の混入は少ない。形質については、光沢、粒形及び粒ぞろいは平年よりやや劣る。（精米工 10月8日付） ・ゆめぴりかの玄米の外観は、ななつぼしと同様に白未熟粒（乳白粒、腹白粒）と死米の混入がやや多いが、青未熟粒及びその他未熟粒の混入は平年並みである。胴割粒の混入は、平年よりもやや多い。着色粒の混入は少ない。形質について、光沢、粒形及び粒ぞろいは平年並みである。（精米工 10月14日付） ・全道で収穫作業は平年並に終了した。（空知）収量は平年よりやや多いが、未熟粒等が多い。（10月20日付） ・9月の紋枯病の発生は、岩見沢市、北斗市ともに平年より多かった。アカヒゲホソミドリカスミカメの発生量は平年並であった。（10月20日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「北海道水田農業ビジョン」に基づき水張面積の拡大に取り組みとともに、稲作所得の向上や北海道米の安定的な需要確保に向けた施策を推進する。 ・共販体制の強化や実需者との契約取引の拡充を図るとともに、消費者ニーズに対応した商品開発・販促企画により道産農畜産物のブランド力を高め、有利販売に努める。
青森	<ul style="list-style-type: none"> ・10月15日現在における水稲の作柄は、8月に日照時間が平年を下回ったことから、登熟（開花、受精から成熟期までの子実の肥大、充実）が「やや不良」と見込まれるもの、田植期から出穂期まで天候に恵まれ、全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数）が「多い」となったことから、10a当たり予想収量は610kg（作況指数104）が見込まれる。（10月30日付） ・つがるロマン玄米の外観は少し小粒だが光沢は良好である。地域により若干差はあるものの粒ぞろいは概ね良い。白未熟粒の混入は散見される程度で全体的に少ない。青未熟粒及びその他未熟粒の混入は平年並みで地域により差がある。胴割粒、被害粒、死米の混入は平年並みで地域により差がある。着色粒は一部に散見される程度である。（精米工 10月31日付） ・10月20日現在の福刈進捗は、県全体で100%となった。福刈終わりは10月11日で平年より3日早かった。（10月21日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・米穀の収穫前契約による安定的取引の拡大（44,820%、前年比108%）
岩手	<ul style="list-style-type: none"> ・10月15日現在における水稲の作柄は、8月に日照時間が平年を下回ったことから、登熟が「やや不良」と見込まれるもの、田植期から出穂期まで天候に恵まれ、全もみ数が「多い」となったことから、10a当たり予想収量は562kg（作況指数105）が見込まれる。（10月30日付） ・10月15日現在、県全体の水稲刈り取り割合は96%（平年同期93%）である。地帯別には、北上川上流が92%、北上川下流が97%、東部が96%、北部が96%であり、県内全域で水稲の刈り取りはほぼ終了した。（10月16日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・実需者の早期見える化に向けた、播種前契約の拡大（25年産主食うるち米82,262%、前年比105%）
宮城	<ul style="list-style-type: none"> ・10月15日現在における水稲の作柄は、8月に日照時間が平年を下回ったことから、登熟が「やや不良」と見込まれるもの、田植期から出穂期まで天候に恵まれ、全もみ数が「多い」となったことから、10a当たり予想収量は559kg（作況指数105）が見込まれる。（10月30日付） ・ひとめぼれは全体的に白未熟粒（乳白粒、腹白粒）及び死米の混入がやや目立つ。青未熟粒の混入は少ない。胴割粒の混入は平年並みであるが、10%以上とやや多いものが見られる。被害粒（奇形粒や砕粒）、着色粒（カメムシの被害による）の混入は少なく良好である。地域（県北・県央・県南）による品質の差は比較的小さい。形質（粒形、粒揃い）は、昨年と同様に良好である。（精米工 10月17日付） ・10月14日現在の県内の刈取面積は69,607haであり、県全体の97.5%で刈取作業は終了している。本年度の県全体における刈取終期は、10月10日で平年に比べて1日早かった。（10月16日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・水田フル活用に向けた、25年産米の集荷率向上と契約栽培の取組強化（複数年・播種前・収穫前契約数量142千%、前年比134%）
秋田	<ul style="list-style-type: none"> ・10月15日現在における水稲の作柄は、8月に日照時間が平年を下回ったことから、登熟が「やや不良」と見込まれるもの、田植期から出穂期まで天候に恵まれ、全もみ数が「やや多い」となったことから、10a当たり予想収量は596kg（作況指数104）が見込まれる。（10月30日付） （平鹿）10月15日現在の刈り取り作業の進捗率は99.2%となり、収穫作業はほぼ終了した。刈取終期（進捗率95%）は10月11日と平年並。（10月17日付） （由利）収穫作業の終期（進捗率95%）は10月9日と平年並。10月15日現在における収穫作業の進捗率は98.8%となっている。（10月17日付） （鹿角）10月15日現在の稲の刈取状況は、94.5%（平年92.9%）で平年よりも進んでおり、まもなく終期を迎える。（10月17日付） （秋田）10月20日現在の刈り取り作業の進捗率は99.4%（平年99.9%）であった。（10月24日付） （雄勝）10月10日現在の収穫作業の進捗状況は、95%で収穫終期となっている。平年より1日早くなっている。（10月17日付） （仙北）「あきたこまち」の10月20日現在の刈り取り状況は99.4%となっている。週末にはすべての刈り取りが終了する見込み。（10月23日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・米穀の播種前・収穫前契約における3者契約・複数年契約の数量拡大（29,244%、前年比101%）
山形	<ul style="list-style-type: none"> ・10月15日現在における水稲の作柄は、8月に日照時間が平年を下回ったことから、登熟が「やや不良」と見込まれるもの、田植期から出穂期まで天候に恵まれ、全もみ数が「多い」となったことから、10a当たり予想収量は623kg（作況指数105）が見込まれる。（10月30日付） ・はえぬきは、白未熟粒（乳白粒）の混入がやや目立つものがあるものの、一昨年のような高温障害による腹白・背白の発現は少ない。未熟粒の混入の多くは青未熟粒及びその他未熟粒である。胴割粒、被害粒（奇形粒や砕粒）、着色粒（カメムシの被害による）、死米の混入は少なく良好である。地域（庄内、内陸）による品質の差も少ない。形質について、光沢、粒形、粒揃いは昨年と同様に良好である。（精米工 10月8日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「つや姫」の安定した高品質・良食味生産体制の確立とブランド化推進（26年産6,692ha、前年比103%）
福島	<ul style="list-style-type: none"> ・10月15日現在における水稲の作柄は、出穂期以降9月上旬まで日照時間が平年を下回って経過したことから、登熟が「やや不良」と見込まれるもの、田植期から出穂期まで天候に恵まれ、全もみ数が「多い」となったことから、10a当たり予想収量は560kg（作況指数104）が見込まれる。（10月30日付） ・出穂期は平年に比べ早まったものの、8月下旬から9月中旬にかけて気温が平年より低かったことから、登熟日数は平年に比べ長くなっている。成熟期は、会津地域研究所と浜城研究所で平年並み、本郡で平年より1週間程度遅れた。県内の刈取作業は始期が平年並み、9月30日現在の進捗率は24%であり、昨年同期（32%）より遅れている。（10月3日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者にとって作りやすい品種特性（耐倒伏性、品種収量安定性）の啓蒙を通じた米の県オリジナル品種「天のつぐ」の作付拡大（約2,000ha、前年比252%）

	品質概況等	備考
茨城	<ul style="list-style-type: none"> 10月15日現在における水稲の作柄は、全もみ数が多く、登熟が平年並みで推移したことから、10a当たり予想収量は548kg（作況指数105）が見込まれる。作柄表示地帯別では、北部では、田植期以降の天候に恵まれ全もみ数が多くなり、登熟も順調に経過したため、10a当たり予想収量は547kg（作況指数106）が見込まれる。産行及び南部では、全もみ数は北部と同様の理由から多くなったものの、登熟はもみ数との相反性と8月中下旬の日照不足によりやや不良となり10a当たり予想収量は産行が549kg（同106）、南部が556kg（同106）が見込まれる。西部では、全もみ数はやや多くなり、登熟も順調に経過したため、10a当たり予想収量は540kg（同103）が見込まれる。（10月30日付） コシヒカリの玄米の外観は、やや筋張った感じで充実はやや劣る。地域により若干バラツキはあるものの粒ぞろいは概ねよい。県南や県西地区の一部で高温障害による心白・腹白の発現が見られるものがある。白未熟粒の混入は、見られるが程度は平年より少ない。青未熟粒及びその他未熟粒の混入は平年並みか平年より僅かに多く見られる。胴割粒の混入は、見られるが軽微なものが多い。被害粒の混入は薄茶米やねじれ粒が主体で、比較的少ない。着色粒は一部に散見される程度である。（精米工 10月3日付） 「あきたこまち」の玄米の外観は、光沢は平年並み程度であるが、充実度・粒ぞろいは平年よりやや劣る。白未熟粒の混入は、平年はほとんど見られないが、本年産はやや見られる。青未熟粒及びその他未熟粒の混入は平年並みか平年より僅かに多くみられる。胴割粒の混入は、軽妙なものが僅かに見られる程度。被害粒の混入は比較的少ないが、地域により差がある。着色粒は全体的に散見される程度である。（9月25日付 精米工） 	<ul style="list-style-type: none"> 「ふくまる」（県オリジナル品種）の作付推進（354ha、前年比3.078%）、および「はるみ」（全農オリジナル品種）の作付推進（106ha、前年比183%）
栃木	<ul style="list-style-type: none"> 10月15日現在における水稲の作柄は、全もみ数及び登熟がともに「平年並み」となったことから、10a当たり予想収量は538kg（作況指数100）が見込まれる。作柄表示地帯別の作柄は、北部が10a当たり予想収量562kg（同100）、中部537kg（同99）、南部498kg（同99）が見込まれる。（10月30日付） 	<ul style="list-style-type: none"> 品質管理にこだわり、新鮮なお米、安全なお米、おいしいお米をお届けします。
埼玉	<ul style="list-style-type: none"> 10月15日現在における水稲の10a当たり予想収量は501kg（作況指数102）が見込まれる。東部の全もみ数は、穂数がやや多く、1穂当たりもみ数が平年並みとなったことから「やや多い」となった。登熟は「やや不良」が見込まれ、10a当たり予想収量は514kg（作況指数102）が見込まれる。西部の全もみ数は、東部地帯同様に穂数がやや多く、1穂当たりもみ数が平年並みとなったことから「やや多い」となった。登熟は「平年並み」が見込まれ、10a当たり予想収量は476kg（作況指数102）が見込まれる。（10月30日付） イネ綿葉枯病は、発生した株の割合は平年より高く多発した昨年並となったが、ヒメトビウムの初期の発生が抑えられたため重篤な発病は少なく、収量への影響は昨年より小さくなった。（10月10日付） 	<ul style="list-style-type: none"> JA・TACとの連携による、大規模生産者対応を中心とした米の集荷拡大（206戸（前年比176%）、集荷数量5,655^ト（前年比183%））
千葉	<ul style="list-style-type: none"> 10月15日現在における水稲の作柄は、登熟は出穂期以降、気温・日照とも平年を上回って推移したことから「平年並み」が見込まれ、刈取最盛期は「平年並み」となった。この結果、10a当たり予想収量558kg（作況指数104）が見込まれる。作柄表示地帯別では、京葉が542kg（同104）、九十九里が576kg（同104）、南房総は532kg（同104）が見込まれる。（10月30日付） 「コシヒカリ」は、胴割粒及び着色粒は地域により混入率に差がある。また、光沢も地域により差があるので注意が必要である。白未熟粒及び青未熟粒の混入は比較的少ない。 「ふさおめ」は、充実度、整歩歩合及び光沢は概ね良い。肌ずれは見られなかった。粒ぞろい及び粒形は良好である。白未熟粒の混入は全体的に少ない。青未熟粒は適度に混入している。胴割粒、被害粒の混入は比較的少ない。着色粒は全体的に散見される。（9月9日付 精米工） 	<ul style="list-style-type: none"> 担い手への品目提案、技術指導、販売提案などによる生産振興対策の支援強化（実需者提携米53ha（前年比379%））
新潟	<ul style="list-style-type: none"> 10月15日現在における水稲の作柄は、10a当たり予想収量547kg（作況指数101）が見込まれる。全もみ数は、地帯別に差がみられるものの5月下旬以降出穂期までおおむね天候に恵まれたことから、「やや多い」となった。登熟は、全もみ数が「やや多い」となったこと、出穂期以降の8月が低温・少日照で推移したことに加え、台風第11号のフェーン風等の被害により「やや不良」が見込まれる。（10月30日付） コシヒカリの玄米の外観については、肌ずれは少なく、光沢があるものが多い。白未熟粒については、心白粒、基部未熟粒、腹白粒が見られたが、平均値で2%前後と多くはない。胴割粒の混入は、平均で5.4%であるが、最大で16.7%とバラツキが見られる。青未熟粒は粒が小さく、充実が不十分なものが多かった。カメムシなどによる着色粒および砕粒は比較的少ない。（精米工 10月15日付） （柏崎）水稲の収穫もほぼ終了し、10月2日現在のコシヒカリの1等級比率は90%台と極めて良好な成績が見込まれる。（10月6日付） 	<ul style="list-style-type: none"> 米の担い手との契約栽培による農家経営安定と集荷拡大（13,185^ト、前年比420%）および需要の安定確保に向けた大口需要者との複数年契約の実施（4,170^ト、新規）
富山	<ul style="list-style-type: none"> 10月15日現在における水稲の10a当たり予想収量は、541kg（作況指数101）が見込まれる。田植最盛期は、5月11日で、平年に比べ2日、前年に比べ1日早く、出穂最盛期は、8月2日で、平年に比べ2日早く、前年に比べ2日遅くなった。全もみ数は、穂数が「やや多い」、1穂当たりもみ数が「平年並み」となったことから「やや多い」となった。登熟は、8月の日照不足等から「やや不良」となった。刈取最盛期は、9月15日で、平年に比べ2日早く、前年に比べ1日遅くなった。被害は、いもち病やニカメイチュウ等の発生が散見された。（10月30日付） コシヒカリの玄米の外観については、肌ずれは少なく、光沢があるものが多い。筋張りもしっかりしており、粒ぞろいも良い。白未熟粒については、地域によるばらつきが見られたが、大きく目立つほどではない。胴割粒の混入は、軽微なものが見られる程度である。カメムシなどによる着色粒は比較的少ない。（精米工 10月3日付） 	<ul style="list-style-type: none"> 富山米ブランドの確立に向けた、販売促進キャンペーンの実施による産地精米の拡大（10,634^ト、前年比109%）
石川	<ul style="list-style-type: none"> 10月15日現在における水稲の作柄は、10a当たり予想収量508kg（作況指数98）が見込まれる。地帯別には加賀は525kg（同97）、能登は484kg（同98）が見込まれる。田植期以降おおむね天候に恵まれ、全もみ数は平年並みとなったものの、8月の記録的な降水量や日照不足の影響により、登熟が平年に比べやや不良となった。（10月30日付） 	<ul style="list-style-type: none"> 石川県産米の需要確保に向けた播種前・収穫前契約の実施（30,570^ト、前年比93%）および輸出用米（新規需要米）の販売拡大（91^ト、前年比456%）
福井	<ul style="list-style-type: none"> 10月15日現在における水稲の作柄は、10a当たり予想収量は510kg（作況指数98）が見込まれる。作柄表示地帯別には、嶺北は515kg（同98）、嶺南は482kg（同98）が見込まれる。全もみ数は、穂数が「やや多い」、1穂当たりもみ数が「平年並み」であったことから「やや多い」となった。登熟は出穂期以降（8月第1半旬～9月第1半旬）、低温・日照不足で経過したこと、および「やや不良」となった。刈取最盛期は9月12日で、平年に比べ1日遅く、前年に比べ2日遅くなった。気象被害は、台風11号や8月下旬、及び9月上旬の大雨の影響により、倒伏の被害が見られる。病害は、穂数の多いほ場で紋枯病が、虫害では、カメムシやニカメイチュウの被害が散見され被害全体では平年並みが見込まれる。（10月30日付） 	<ul style="list-style-type: none"> コシヒカリのふるさとを誇りに、安全でおいしいお米を福井から全国へ。

長野	品質概況等	備考
長野	<p>・10月15日現在における水稲の作柄は、10a当たり予想収量は597kgで、作況指数は「96」が見込まれる。 全もみ数は5月中旬以降から7月までの高温経過により、穂数がやや多く、一穂当たりもみ数はやや少ないことから、「<u>平年並み</u>」となった。登熟は、出穂・開花期以降の8月に曇雨天続きまで、日照不足となったことや、9月の低温傾向により、「<u>やや不良</u>」が見込まれる。刈取最盛期は、登熟期間が長引いたことにより、平年より2日遅れて10月1日となった。(10月30日付)</p> <p>・玄米の外観は、白未熟粒の混入は少ないが、青未熟粒及びその他未熟粒、死米の混入はやや多い。胴割粒の混入は10%以上と多いものがあり、地域（主に北信及び中信地域）によりバラつきがある。被害粒、着色粒（カメムシの被害による）の混入は少なく良好である。形質について、全体的に光沢は概ね良好であり、粒形・粒揃いは、昨年と同様に良好である。 (精米工 10月31日付)</p> <p>・9月は、紋枯病が全般に平年に比べ発生は多く、地域によっては上位葉鞘への進展が著しいほ場がみられた。稲こじ病は全般に平年並からやや多く、地域によって発生の目立つところがあった。(10月15日付)</p>	<p>・生産者の人々が士づくりからこだわり、丹精込めて作られた長野米は、最新設備の工場で徹底した品質管理のもと、全国各地にお届けしています。</p>
滋賀	<p>・10月15日現在における水稲の10a当たり予想収量は502kg(作況指数97)が見込まれる。作柄表示地帯別には、湖南は510kg(同97)、湖北は485kg(同97)が見込まれる。 刈取最盛期は、平年並みの9月17日となった。全もみ数は、穂数が「<u>やや多い</u>」で、1穂当たりもみ数は「<u>平年並み</u>」となったことから「<u>やや多い</u>」となった。登熟は、出穂期以降台風・大雨、日照不足に加え、8月中旬～9月中旬にかけて低温で経過したこと等から「<u>不良</u>」となった。(10月30日付)</p>	<p>・近江米のブランド方向上に向けた主力品種としての新品種「みずがみ」の育成・拡大(815%、新規)、および輸出販路の開拓(2%、新規)</p>
兵庫	<p>・10月15日現在における水稲の10a当たり予想収量は、487kg(作況指数97)が見込まれる。 作柄表示地帯別では、県南が485kg(同96)、県北が496kg(同98)、淡路は492kg(同98)が見込まれる。 穂数は、田植え後の気象がおおむね順調に経過したことから平年並みとなった。全もみ数は、穂数が平年並みで、1穂当たりもみ数がやや少なくなったことから、やや少なくなった。登熟は、早生品種で出穂後の日照不足の影響で不良傾向となったが、中生・晩生品種では9月下旬の気温・日照時間が平年を上回って経過したことから良好となったことから、全体では平年並みが見込まれる。(10月30日付)</p>	<p>・「集荷決起大会」および「ほんまもん山田錦需要拡大イベント(東京)」の開催等によるグレードアップ兵庫県産山田錦の取組強化(11,650%、前年比104%)</p>
岡山	<p>・10月15日現在における水稲の10a当たり予想収量は、493kg(作況指数94)が見込まれる。 作柄表示地帯別にみると、南部は508kg(同95)、中北部は470kg(同92)が見込まれる。 穂数は、中北部では初期生育が良好で分けつが促進され数が増えたことからやや多く、南部は数が増え平年並みを確保していたものの、幼穂形成期にあたる8月に日照不足であったことからやや少なくなった。県全体では平年並みとなった。1穂当たりもみ数は、中北部では幼穂形成期にあたる7月の天候がおおむね良好であったこと、南部は穂数減少の補償作用等から、いずれも平年並みとなりました。この結果、全もみ数は中北部ではやや多く、南部はやや少なくなり、県全体で平年並みとなった。登熟は、8月の記録的な日照不足やいもち病等の発生により登熟が抑制されたことから中北部では不良が見込まれ、南部においても出穂開花期の日照不足の影響により稔実が不良と見込まれることや病虫害及び台風による倒伏の発生等からやや不良が見込まれる。県全体では不良が見込まれる。(10月30日付)</p>	<p>・実需者ニーズに即した酒造好適米の生産拡大(1,684%、前年比111%)</p>
広島	<p>・10月15日現在における水稲の10a当たり予想収量は、497kg(作況指数95)が見込まれる。 これは、1m当たり全もみ数が「<u>平年並み</u>」になったものの、8月に曇雨天が続いたことから、同月の日照時間が平年を大幅に下回り、登熟が抑制され、登熟が「<u>やや不良</u>」と見込まれるため。 地帯別にみると、南部の10a当たり予想収量は510kg(作況指数97)、北部は487kg(作況指数93)が見込まれる。(10月30日付)</p>	<p>・米の多収性品種「あきさかり」を新たに追加した、JAグループを挙げた米頒布会の実施(頒布19,524枚、前年比104%)</p>
山口	<p>・10月15日現在における水稲の10a当たり予想収量は483kg(作況指数96)が見込まれる。作柄表示地帯別にみると、東部は452kg(同94)、西部は496kg(同97)及び長北は474kg(同94)が見込まれる。 1m当たり穂数は、5月に平年を上回る日照時間が続いたことから、早生種では平年に比べ多くなったものの、6月から7月中旬までの日照不足により、中生・晩生種では平年に比べ少なくなったことから、全体では「<u>平年並み</u>」となった。1穂当たりもみ数は、早生種では、1m当たり穂数が増えたことや、6月から7月中旬までの日照不足の間幼穂形成期を迎えたためもみ数の増加に影響を受け、平年に比べ少なくなった。中生・晩生種では、1m当たり穂数が平年に比べ少なかったものの、補償作用により平年並みとなった。これにより全体では「<u>やや少ない</u>」となり、また、1m当たり全もみ数は、「<u>やや少ない</u>」となった。登熟は、9月上旬以降天候が回復したことにより中生・晩生種は平年並みに回復したと見込まれるものの、早生種は、8月上旬から9月初旬までの記録的な日照不足による影響が大きかったことから「<u>やや不良</u>」が見込まれる。(10月30日付)</p>	<p>・収穫前契約、用途別結び付き玄米販売の拡大(収穫前契約22,800%、前年比103%)</p>
愛媛	<p>・10月15日現在における10a当たり予想収量は490kg、作況指数は98が見込まれる。 水稲の作柄は、1m当たり全もみ数が平年並みに確保されたものの、比較的収穫時期が早いコシヒカリ、あきたこまち等においては、8月の日照不足の影響を受けて登熟がやや悪くなった。また、9月15日以降日照時間が平年に比べて少なかったものの、収穫時期が遅いヒノヒカリ、にこまる等においては、登熟初期から夜間の気温が下がり、登熟に好適な期間が長くなり一部持ち直した。(10月30日付)</p> <p>・早期水稲では、天候不良により熟れ具合が悪く収穫適期の判定が例年より難しい事例も発生した。普通期水稲は、出穂がやや遅れ気味であったが、10月の平均気温は高い見込みであることから、成熟期は平年並～やや遅いと予想。(10月1日付)</p>	<p>・米の新奨励品種「にこまる」の生産集荷拡大(集荷1,030%、前年比335%)、および品質向上に向けた実証試験(施肥体系、栽培密度)の実施(県下10地区)</p>
高知	<p>・10月15日現在における水稲の10a当たり予想収量は438kg(作況指数95)が見込まれる。 このうち、早期栽培は470kg(作況指数98)、普通栽培は393kg(作況指数91)が見込まれる。 早期栽培は、苗の生育はおおむね良好、穂数は平年並みとなった。1穂当たりもみ数は、やや少なくなった。全もみ数は、1穂当たりもみ数がやや少なくなったことからやや少なくなった。登熟は、8月に入って日照不足となったものの、生育期の天候に恵まれ穂体が健全であったことや、7月中下旬の多照と気温日較差が大きかったことなどから、やや良となった。 被害は、台風第12号、第11号による冠水や倒伏等が発生し、その後も降雨の日が続いたことから刈取りが遅れ、倒伏したほ場では穂発芽等が発生した。一部で黄化萎縮病の発生がみられたことなどから、総じてやや多くなった。 普通栽培は、苗の生育、初期生育とも天候に恵まれおおむね良好。穂数は、やや多くなった。1穂当たりもみ数は、日照不足や台風の影響等により、少なくなった。全もみ数は、1穂当たりもみ数が少なくなったことから、少なくなった。登熟は、長期にわたる日照不足や台風の影響に加え、いもち病などの病害が多く発生したことからやや不良と見込まれる。 被害は、日照不足や台風の影響等によりもみ数の減少や不稔もみが発生した。病虫害では、いもち病の発生が多くなったほか、こま葉枯病や稲こじ病、紋枯病等が広範囲にみられ、一部ではウンカの被害もみられたことなどから、総じて多いと見込まれる。(10月30日付)</p>	<p>・1等米比率の維持・向上に向けた、高温と日照不足に対応した高品質米生産の基本技術の徹底(共計1等米比率24%、前年26%)</p>

	品質概況等	備考
福岡	<ul style="list-style-type: none"> 10月15日現在における水稲の作柄は、10a 当たり予想収量477kg（作況指数96）が見込まれる。穂数がやや少なく、1種当たりもみ数が平年並みとなったことから、全もみ数はやや少なくなった。登熟は、出穂期以降の気象がおおむね順調に経過していることから、平年並みが見込まれる。（10月30日付） 	<ul style="list-style-type: none"> 地産地消・食育の取組強化に向けた学校給食米の一元供給および金のめし丸県産米「元氣つくし」の作付拡大（4,260ha、前年比112%）
熊本	<ul style="list-style-type: none"> 10月15日現在における水稲の作柄は、生育全般での日照不足の影響による生育の遅れから、全もみ数がやや少なくなったこと、一部でウンカ、いもち病等の被害により、10a 当たり予想収量は501kg（作況指数97）が見込まれる。県北地帯は、全もみ数は「やや少ない」となった。登熟は、一部でウンカによる登熟不良がみられるが「平年並み」が見込まれる。このことから、10a 当たり予想収量は512kg（作況指数97）が見込まれる。阿蘇地帯は、全もみ数は「平年並み」となった。登熟は、台風による遅れ及び出穂期以降日照不足に推移したことから、「やや不良」が見込まれる。このことから、10a 当たり予想収量は494kg（作況指数97）が見込まれる。県南地帯は、全もみ数は「やや少ない」となった。登熟は「やや良」が見込まれる。このことから、10a 当たり予想収量は501kg（作況指数98）が見込まれる。天草地帯は、全もみ数は「やや少ない」となった。登熟は、7月中下旬からの日照が平年並みとなったこと、普通期の全もみ数もやや少ないことから「平年並み」が見込まれる。このことから、10a 当たり予想収量は429kg（作況指数98）が見込まれる。（10月30日付） 	<ul style="list-style-type: none"> 需要に応じた売れる米づくりの推進。
宮崎	<ul style="list-style-type: none"> 10月15日現在における水稲の作柄は、日照不足等の影響から10a 当たり予想収量は487kg（作況指数98）が見込まれる。このうち、早期栽培の10a 当たり収量は488kg（作況指数102）、普通栽培の10a 当たり予想収量は486kg（作況指数95）が見込まれる。早期栽培は、全もみ数は、穂数、1種当たりもみ数ともに平年並みとなったことから、平年並みとなった。登熟は、7月中旬から下旬にかけて高温・多照で推移したことから、平年並みとなった。被害は、出穂期に台風の影響を受けた地帯での不稔粒の発生や、いもち病、紋枯病、カメムシ等の病虫害の発生もみられましたが、総じて平年並みとなった。以上のことから、10a 当たり収量は488kg（作況指数102）となった。普通栽培は、全もみ数は、1種当たりもみ数はやや多くなったが、穂数が少なくなったことから、平年に比べてやや少なくなった。登熟は、もみ数がやや少ないことから補償作用により平年並みが見込まれる。被害は、総じてやや多いと見込まれる。気象被害は、低温や日照不足、台風による暴風雨により生育被害や登熟への影響がみられ、病害は、いもち病や紋枯病が県内全域で見受けられ、被害程度はやや多くなっている。虫害は、トビイロウンカによる被害の発生が平年に比べて多く、一部地帯では埋枯れが散見される。以上のことから、10a 当たり予想収量は486kg（作況指数95）が見込まれる。（10月30日付） コシヒカリの玄米の外観は、地域差はあるものの、全体的に光沢、粒ぞろい、粒形は良好である。白未熟粒の混入は全体的に少ない。青未熟粒及びその他未熟粒の混入はやや多く、地域による差がある。胴割粒及び被害粒の混入は比較的に少ないが地域により差がある。死米の混入はやや多く、これも地域による差がある。着色粒は全体的に散見される程度である。（8月15日付 精米工） 	<ul style="list-style-type: none"> 国における農地の集積・集約化や米をはじめとする農業政策、県でのフードビジネス推進への取り組みなど、各種政策に対応するとともに事業環境の大きな変動に柔軟な対応をしていく。
鹿児島	<ul style="list-style-type: none"> 10月15日現在における水稲の作柄は、早期栽培では登熟後半の好天などで登熟が良好となり10a 当たり収量は455kg（作況指数103）、普通栽培では、田植え後の生育初期と幼穂形成期の8月初めから登熟期にかけての長期間が日照不足であったこと、台風や病虫害等の被害により10a 当たり予想収量は464kg（作況指数94）が見込まれる。（10月30日付） コシヒカリの玄米の外観は、光沢は地域によりかなり差はあるが、粒ぞろい及び粒形は良好である。白未熟粒の混入は全体的に少ない。青未熟粒及びその他未熟粒の混入は地域により差がある。胴割粒及び被害粒の混入は比較的に少ないが地域により差がある。死米の混入はやや多く、これも地域により差がある。着色粒は全体的に散見される程度である。（8月22日付 精米工） 	<ul style="list-style-type: none"> 大規模稲作農家との品質基準に基づく4社契約取引の拡大ならびに行政と一体となった非主食用米の産地化推進。

注1：自治体等公表資料については地方自治体及び出先機関等が公表している資料から抜粋、日付は公表日。

注2：備考欄のイタリック体はホクレン農業協同組合及び全産農本部等のホームページで公表されている資料を基に取り纏め。ゴシック体は全国農業協同組合連合会のホームページで公表されている資料から抜粋。

注3：（精米工）とあるものは、一般社団法人日本精米工業会が提供している「米質概況情報」から抜粋。但し「米質概況情報」は一般社団法人日本精米工業会が正会員精米工場から得たサンプル（玄米）を測定したものであり、母集団として産地の評価を決めるものではない。

注4：更新箇所については下線で表した。

参考資料

平成26年産水陸稲の収穫量(農林水産省、北海道農政事務所、東北農政局、関東農政局、北陸農政局、近畿農政局、中国四国農政局、九州農政局)、
平成25年産水陸稲の収穫量(農林水産省)、
平成26年産米の農産物検査結果(速報値/平成26年9月30日現在)(農林水産省)、
平成25年産米の農産物検査結果(速報値/平成25年9月30日現在)(農林水産省)、
平成26年産水稲の作付面積及び予想収穫量(10月15日現在)(農林水産省)、
平成25年産米の都道府県別の生産数量目標について(農林水産省)、
平成26年産米の都道府県別の生産数量目標について(農林水産省)、
平成26年度病害虫発生予報第7号(農林水産省)
玄米品質概況(平成26年産)(一般社団法人日本精米工業会)

農作物の生育状況(10月15日現在)(北海道)、農作物生育状況-10月15日現在-(空知総合振興局)
平成26年度病害虫発生予察情報第19号9月月報(北海道病害虫防除所)、
稲刈り進捗状況(10月20日現在)(青森県)、
水稲の刈り取り状況(10月15日現在概況速報)について(岩手県)、
平成26年産水稲の刈取状況について(10月14日現在)(宮城県)、
生育状況(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」<http://www.e-komachi.jp/>)、
主要な農作物の生育情報平成26年度第7号(福島県)、
病害虫防除情報(埼玉県病害虫防除所)、
稲作管理情報11(柏崎農業普及指導センター)、
病害虫発生予察9月月報(長野県病害虫防除所)、
平成26年度兵庫県農業気象技術情報第6号(10月情報)について(兵庫県)、
平成26年度兵庫県農業気象技術情報第6号(10月情報)(兵庫県)、
平成26年度病害虫発生予報第7号(岡山県病害虫防除所)、
気象情報に基づく技術対策・作物(10月)(愛媛県)、
平成26年度病害虫発生予察9月月報(高知県病害虫防除所)、
普通期水稲病害虫発生予察巡回調査月報(9月下旬)(鹿児島県病害虫防除所)

ホクレン農業協同組合連合会ホームページ、JA全農とちぎホームページ、JA福井県経済連ホームページ、
JA全農長野ホームページ、JA熊本経済連ホームページ、JA宮崎経済連ホームページ、JA鹿児島県経済連ホームページ、
都府県本部による国産農畜産物の販売力強化に向けた取り組み(全国農業協同組合連合会ホームページ)